

# 園長のまなざし

## 第12回

### 日本の豊かな文化に触れる

木村 英美

「師走」の響きに慌ただしさを感ずる季節となりました。子どもたちが楽しみにしているクリスマスも、もうすぐです。そして、「もういくつ寝るとお正月」の歌を思わず口ずさんでいる先生たちもうれしそう。

大掃除でさっぱりと清められ、壁面に飾られた門松や注連飾り、鏡もちといった日本のお正月を迎える保育室のたたずまいに「気持ちがいい」「なんかきれい」と、子どもでも感じる凛とした雰囲気がいまいます。そして、その一つひとつに込められた願いや意味を知るにつれ、大きくなったことの喜びとたくましさ、子ども自身の顔つきに何となく表れるようになるから不思議です。

今は、いろいろな国の子どもたちが地域の幼稚園に通うことも増えました。それぞれの国の新しい年の迎え方について教えてもらえると、交際理解を進めるよい機会となるでしょう。

日本の文化は、四季に恵まれ、移り変わりを非常に大切にし、感謝して、自然と共に生きる自分たちの生



活の安泰を願ってきました。さまざまな生活の知恵があり、豊かな人生観が表れているといえます。今では伝統行事の多くが忘れられつつありますが、もう一度その原点にふれ、子どもたちに伝えていく役割が幼稚園にも求められていると思います。伝統行事、文化は受け手、伝え手がいなければ伝わっていきません。若い先生は、経験豊かな人生の先輩たちから学び、子どもたちに伝えていく機会にしてほしいと思います。

大人も子どもも「ヨイシヨ、ヨイシヨ」と掛け声をかける中、湯気のたつたおいしそうなおもちがつきあがり、ヒョイと臼の中から顔を出しました。こぼれる笑顔が広がり、共にいられることの幸せを改めて感じる瞬間でした。

豊かで幸せな子ども時代を子どもたちに贈ることができるよう、日々の営みをていねいに支え続けていきたいです。

(港区立高輪幼稚園園長)

\*この連載は今回で終了いたします。